

平成26年10月7日
中部森林管理局

御嶽山噴火に伴う濁沢川の現地調査について

中部森林管理局では、平成26年10月6日から7日にかけて、(独)森林総合研究所及び信州大学と合同で、御嶽山周辺の現地調査を下記のとおり実施しました。

この調査は、10月5日に濁沢川に設置したワイヤーセンサーが作動し、監視カメラでも、まとまった量の濁水が流下し河床に土石が堆積している状況を確認したことから、現地の状況を把握し今後の必要な対策を検討するために行ったものです。

調査の結果、噴火口のある王滝村の濁沢川において、小規模な土石流が流下したことを確認しました。

なお、土石流によって流下した土石は、濁沢川と伝上川合流点付近まで堆積しており、王滝川本川まで達するような規模ではありませんでした。細粒分については治山ダムの除石を実施している箇所付近まで堆積していることを確認しました。

このため、土石流の防止と流下する火山灰を捕捉・沈殿させる効果を期待して、濁沢川の既設治山ダムの除石を、当面継続して実施します。

記

- 1 調査者 森林総合研究所、信州大学、中部森林管理局
- 2 調査結果 別紙のとおり

<問い合わせ先>

中部森林管理局

治山課長 寺岡 (TEL 050-3160-6554 FAX 026-225-6010)

総務課長 小林 (TEL 050-3160-6509 FAX 026-236-2526)

E-mail shinichi_kobayashi@rinya.maff.go.jp

調査者：信州大学農学部森林科学科教授 北原曜
森林総合研究所水土保持研究領域
危険度評価担当チーム長 岡田康彦
山地災害研究室長 大丸裕武
治山研究室 小川明穂

所見

- ・ 上空からの調査では、発生源は赤川上流の地獄谷と考えられる。
- ・ 火山灰を含んだ多量の水が赤川を流下し、赤川と白川の合流点から下部に堆積していた石礫を濁沢川に押し流したものと考えられる。
- ・ 土石流としては規模が小さく、これまでに設置されていた治山ダム群によって減勢されたと考えられるが、林野庁が設置したワイヤーセンサーの下流まで到達していた。
- ・ 大きな石礫は、伝上川と濁沢の合流点直下に設置された治山ダム付近で止まっていたが、細粒分は更に下流まで流下して、林野庁が施工中であった除石箇所ではほぼ捕捉され、更に下流で長野県が施工中であった除石箇所にも一部流下し捕捉されていた。
- ・ 依然として火口周辺には火山灰の堆積が認められることから、大雨の際には今回と同様の堆積土砂の流下が発生する可能性も否定できないが、今回と同程度の土石流では、王滝川との合流点までは到達しないと考えられる。
- ・ このため、緊急の対策としてこれまで実施している除石工事を継続することは、有効な手段と考えられる。
- ・ また、雨量観測やセンサー類による監視を組み合わせ、降雨と石礫の移動との関係を明らかに出来れば、今後の警戒避難を判断することにも役立つものと考えられる。

御嶽山噴火に伴う濁沢川の土石流について

平成26年10月7日
中部森林管理局

上空写真
濁沢川上流域の状況



上空写真
赤川と白川の合流地点



上空写真
濁沢川中流の状況



上空写真
濁沢川と伝上川の合流地点



ワイヤーセンサー設置箇所付近



ワイヤーセンサー設置箇所より
下流の状況



大きな石礫の流下が見られた範囲

細粒状の石礫の流下が見られた範囲

上空写真
緊急除石対策工事箇所の状況

